

魅力発信！えひめ農業

令和8年3月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、2月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564




<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>



目次



目次	1
3月のトピックス5選	3
アスパラガス農家が全国青年農業者会議で6次化の取組み事例を発表	3
「甘平」、「紅プリンセス」実証結果を報告	3
イタリア野菜の振興に向けた「生産者・実需者交流会」を開催	4
規模拡大をにらみ乾田直播栽培の実証を開始	4
ジベレリン散布による「清見」の果皮障害対策を実証	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
はだか麦の効果的な少雨対策を実施	6
大型檻によるサル捕獲研修（第4回）を実施	6
「西条地区青年農業者のつどい」を開催	7
令和8年産はだか麦栽培の後期管理の徹底	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
うま茶振興協議会総会で次年度活動を検討	8
「紅プリンセス」栽培講習会を初めて開催	8
■東予地方局 産地戦略推進室	8
オランダ式環境制御技術の活動成果を共有	9
花木苗の増殖とせん定について研修	9
■今治支局 地域農業育成室	9
県オリジナル品種「愛媛果試第48号」のせん定講習会を開催	10
きゅうり栽培希望者説明会の開催	10
■中予地方局地域農業育成室	10
ユーカーの安定生産に向けた栽培講習会の実施	11
農作業有償ボランティアに係る情報交換会を開催	11
きゅうりの促成栽培における天敵利用の実証	12
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	12
集落営農の3市町連携活動報告会の開催	12
「媛かぐや」の高品質安定生産と実需者ニーズに基づく加工出荷体制の構築	13
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	13
雑穀の生産振興や消費拡大を協議	13
青年農業者組織が「土づくり」に係る勉強会を実施	14
道の駅で雑穀メニューを販売中	14
女性農業者が食育交流会を開催	15
■南予地方局 地域農業育成室	15

西日本豪雨災害からの営農再開支援	15
急傾斜園への簡易作業道の設置推進	16
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	16
農業研修生らが施設きゅうりの先進地を視察	16
■南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班	16
農作業事故ゼロを目指してアンケート調査を実施	17
「河内晩柑」におけるドローン防除の効果を確認	17
■南予地方局産地戦略推進室	17
「媛小春ゼリー」が完成、販売開始！	18
つるむらさき定植前講習会を各地で開催	18
■八幡浜支局地域農業育成室	18
マンダリン・シトラス合同スクール「石積み講習会」を開催	19
若手で地域の課題解決を図る	19
■八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	19
青年農業者連絡協議会がプロジェクト発表会を開催	20
青年農業者がマルシェを開催し、西予の農業を PR.	20
■八幡浜支局 産地戦略推進室	20
FOODEX JAPAN2026 で青ネギの販路開拓を支援.	21



3月のトピックス5選

標 題	アスパラガス農家が全国青年農業者会議で6次化の取組み事例を発表		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月5日～6日	場所	国立オリンピック記念青少年総合センター	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会(6人)	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○東京都で開催された「第64回全国青年農業者会議」において、西条市の豊田果歩氏が中四国ブロック代表として地域活動部門のプロジェクト発表を行った。</p> <p>○本会議は、全国の青年農業者が個人・グループの活動成果を発表して相互研さんを図るとともに、交流を通じて地域農業の発展に寄与することを目的に開催されている。</p> <p>○豊田氏は、アスパラガスの廃棄部分を活用したお茶「アスパラ茶ん」の商品開発を行っており、6次化の経緯や販売に向けた取組み、今後の展望等について発表した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した青年農業者からは、「全国の取組み事例に刺激を受けた」「今後も組織活動を積極的にやりたい」などの声が聞かれた。</p> <p>○今後も青年農業者組織への加入促進や関係機関の連携を通じて活動を支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>プロジェクト発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>発表者の豊田果歩氏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アスパラ茶ん</p> </div> </div>				

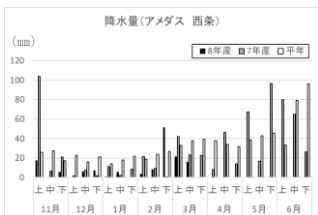


標 題	「甘平」、「紅プリンセス」実証結果を報告		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年3月16日	場所	果樹研究センター	
指導対象	JA 営農指導員、市職員等 (28人)	連携機関	JA(えひめ中央、松山市)、松山市、伊予市、農産園芸課、果樹研	
普及指導内容	<p>○「甘平」、「紅プリンセス」の安定生産を図るため、「第2回魅力ある中晩柑産地づくり会議」を開催し、今年度の実証試験（「甘平」：裂果対策、「紅プリンセス」：す上がりと日焼け対策）の結果を報告するとともに、管内の生産状況について相互に情報交換。</p> <p>○また、県下の「紅プリンセス生産支援事業」による技術実証に関する情報共有や、「紅プリンセス」栽培技術のポイントに関するほ場研修を実施。</p>			
結果と今後	<p>○「甘平」は、夏秋期の降雨等により全体に裂果は少なかったが、実証結果から、かん水等による土壌水分保持の重要性が改めて確認された。</p> <p>○「紅プリンセス」の日焼けは、サンテ被覆によりほぼ抑えられたが、被覆後の脱落や作業性の悪さなどの課題があり、さらに検討が必要。</p> <p>○令和7年産出荷量は、「甘平」1,598 t、「紅プリンセス」275 t（管内 JA 出荷量ベース）。</p> <p>○引き続き、「甘平」の裂果や「紅プリンセス」の日焼け等の課題解決に向けて、現地実証を通じた効果的な対策技術の確立・普及を図り、連年安定生産につなげる。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>左：結果報告会 右：ほ場研修</p> </div> </div>				

標 題	イタリア野菜の振興に向けた「生産者・実需者交流会」を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和8年3月11日	場所	さいさいきて屋レンタルキッチン	
指導対象	今治市内生産者（7人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○12月に開催した飲食店イベント「いまばり×しまなみ野菜FESTA」以降の継続的な取引を図るため、実需者や販路開拓に積極的な生産者等を対象とした交流会を開催。</p> <p>○交流会は、少人数でじっくり話し合う「グループ交流」と調理や試食等を交えながら自由に交流できる「フリータイム」の2部に分けて実施し、生産者・実需者に専用の自己紹介カードを配布するなど、円滑な会話の促進を図った。</p>			
結果と今後	<p>○当日は、イベント実施3店舗（4人）及び食品加工企業1社（2人）が参加し、生産者7人と相互の情報共有や生産野菜のPR、試食などの交流が活発に行われた。</p> <p>○結果、これまで出荷を見送っていた野菜（抽苔直前の葉が小さいカーボロネロ等）の新たな取引につながるとともに、今後の栽培計画の見直しが図られるなど、成功裏に終了した。</p> <p>○次年度は、定期的な交流会の開催に加え、JAと連携したほ場見学会にも取り組み、マーケットインを意識した品目の選定や実需者との継続的な取引の定着につなげることで、今治産イタリア野菜の更なる振興と生産者の所得向上を図っていく。</p>			
				<p>左：交流会の主旨説明</p> <p>右：交流会の実施状況（グループ交流）</p>




標 題	規模拡大をにらみ乾田直播栽培の実証を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年3月10日	場所	鬼北町内各地	
指導対象	乾田直播生産者（11人）	連携機関	鬼北町、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○鬼北町の大規模稲作生産者は、1.1haの水田において、「にじのきらめき」の乾田直播栽培の実証を開始した。</p> <p>○本農法は、代かき工程の省略による節水や濁水抑制に加え、作業時期の分散を可能にし、規模拡大に有効な手段である。</p> <p>○当班では、当地区に粘質土壌が広がることから、イネ紋枯病の多発が懸念されるため、種子に塗布する薬剤処理の実施を指導した。</p> <p>○播種当日は、一週間前の降雨（累計54mm）で土壌水分は多めであったが、当班が播種深度や砕土状況を慎重に調整するよう助言した結果、予定通り播種を完了した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は、「乾田直播を成功させ、規模拡大につなげたい」、最大の関門である苗立ち時期について「4月中旬以降の出芽が楽しみ」と意気込んでいる。</p> <p>○当班では、今後も生育、収量・品質調査などを通じて、乾田直播栽培の生産安定を目指した支援を継続する。</p>			
				<p>【乾田直播栽培】</p> <p>左：高速・高精度播種機による乾田直播の実施</p> <p>右：播種・鎮圧後の土壌表面</p>



標 題	ジベレリン散布による「清見」の果皮障害対策を実証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年3月12日	場所	伊方町三崎地区	
指導対象	管内の「清見」生産者（30人）	連携機関	みかん研究所、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○気候変動による近年の冬季の高温や降雨により、「清見」等の晩柑類では、果皮に亀裂が入るクラッキングや、亀裂から雨水が入ることによる水腐れ症等の果皮障害の発生が問題となっている。</p> <p>○果皮障害軽減に有効な植物成長調整剤のジベレリンは、「清見」に農薬登録がなかったが、当室が主体となって関係機関と連携し、令和3年度から農薬登録適用拡大に向けた調査を実施し、令和6年7月に新たに登録された。</p> <p>○その後、当室では、管内における適切な散布時期等を検討するため、JAや生産者と共同で調査を行っており、その効果を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○調査の結果、無処理区での果皮障害の発生率50%程度に対して、着色期（11月頃）に処理した区では、10%程度まで軽減したことを確認した。</p> <p>○本調査の結果を受けて、今後、JA等と連携しながらジベレリンの効果的な散布を推進し、果皮障害の軽減及び正品率の向上に努めていく。</p>			
				<p>左：ジベレリン散布 右：クラッキング発生果実</p>


えひめ農業


標 題	はだか麦の効果的な少雨対策を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月27日、3月16日	場所	西条市小松町新宮、新居浜市中萩	
指導対象	新宮生産組合、新居浜麦栽培農家(2人)	連携機関	全農えひめ、JA	
普及指導内容	<p>○冬期の記録的な少雨の影響から、はだか麦の適正な追肥の方法や速攻性が期待できる葉面散布肥料(コロン)の試験を行った。</p> <p>○令和8年産はだか麦は、11月初めから少雨が続き、2月11日の降雨で一気に生育が進んだ結果、土壌乾燥により元肥の肥効が残り追肥を控えていたほ場や、穂肥を施用できなかったほ場では、生育が遅れるとともに葉色が落ちるなどの症状が見られていた。</p> <p>○追肥が施用できていないほ場でのドローン散布及び穂肥が施用できていないほ場でのブームスプレー散布を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○現地での生育調査等の結果、追肥はドローンで散布する場合は出穂予測1ヵ月前、ブームスプレーでの散布は出穂予測10日前に行った。</p> <p>○今後、追肥や葉面散布の効果については、生育及び収量調査を実施し検証することとしており、無降雨等で施肥ができない場合の効果的な応急対策等を検討する。</p>			
	 <p>降水量(アメダス 西条)</p> <p>(mm)</p> <p>■8年産 ■7年産 □平均</p> <p>上中下上中下上中下上中下上中下上中下上中下上中下</p> <p>11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月</p>			
	降雨の状況(3月中旬まで)	ドローンでの葉面散布	ブームスプレーでの追肥	



標 題	大型檻によるサル捕獲研修(第4回)を実施		機関名	予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月6日	場所	東予地方局西条第二庁舎 西条市吉岡地区	
指導対象	市、JA鳥獣被害対策担当者、えひめ地域鳥獣管理専門員、農業者(23人)	連携機関	西条市、新居浜市、四国中央市、JAえひめ未来、NPO法人西条自然学校	
普及指導内容	<p>○サルの被害対策に取り組む市、JAの担当者や被害集落の代表者等を対象に、サルの習性や大型檻による捕獲技術を学ぶ研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、当室から今年度取り組んだ群れの行動調査の結果を報告するとともに、農業用資材を利用した低コスト型自作檻での捕獲実証の現地を紹介、また四国自然史科学研究センターから捕獲に向けたアドバイスを受けた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、効率的な捕獲手法、音での追い払い等積極的な質問が出され、活気に満ちた研修となった。</p> <p>○今後も大型檻での群れごとの捕獲を進めるとともに、低コスト自作檻の捕獲実証等を通して、効果的な捕獲と農作物の被害低減を推進する。</p>			
				
	室内研修でサルの習性を学ぶ	現地研修(市販大型檻)	現地研修(低コスト檻)	



標 題	「西条地区青年農業者のつどい」を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月9日	場所	西条市役所	
指導対象	西条地区青年農業者協議会会員 (18人)	連携 機関	西条市、新居浜市	
普及指導 内容	<p>○青年農業者組織の各グループが取り組むプロジェクトの活動報告会を開催し、会員相互の研さんを図った。</p> <p>○報告では、地元の園児や高校生と取り組んだ花育活動や、サルの被害対策活動等に関する発表が行われ、4月に県の青年組織が開催する「若い農業経営者大会」の西条地区代表課題を選出した。</p>			
結果と 今後	<p>○地区代表として発表する課題には、作物実践班が取り組んだ水稲新品種「にじのきらめき」の品種特性と施肥量に関する課題が選出された。</p> <p>○発表後には、グループに分かれ、次年度のプロジェクト活動に向けた打ち合わせを行った。</p> <p>○当室では、地区代表課題のブラッシュアップに取り組み発表の準備を進めるとともに、今後もプロジェクト活動の支援等を通して青年農業者の資質向上を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>プロジェクト発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>実践班別の意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>				



標 題	令和8年産はだか麦栽培の後期管理の徹底		機関名	東予地方局地域農業育成室																								
年月日	令和8年3月25日	場所	JA 周桑営農管理センター																									
指導対象	JA 周桑米麦部会員 (35人)	連携 機関	JA 周桑																									
普及指導 内容	<p>○JA 周桑はだか麦後期管理研修会において、赤かび病の防除、排水対策、雑草除去、適期収穫と調整作業について説明した。</p> <p>○令和8年産のはだか麦については、3月以降の降雨と高温により赤かび病の発生を助長する環境となっており、当室では赤かび病の飛散する胞子を日々観測し、その結果を生産者に提供している。</p>																											
結果と 今後	<p>○赤かび病の防除について、出穂予測等から目安となる防除時期を提示し、ほ場毎に出穂、開花、天候の状況を確認のうえ防除を行うよう指導するとともに、現在の胞子の飛散状況等について説明した。</p> <p>○今季のはだか麦については、追肥が効かないことによる初期の生育不良や生育期間中のトータル施肥量の不足による収量及び品質低下が懸念されていることから、引き続き収穫までの栽培管理が確実にできるよう指導する。</p>																											
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>研修会の状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>管理の徹底を説明</p> </div> <div style="text-align: center;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">出穂予測と防除時期(3月22日予測)</th> </tr> <tr> <th>播種日</th> <th>出穂予測</th> <th>防除予想</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月1日</td> <td>3月13日</td> <td>3月18日～3月20日</td> </tr> <tr> <td>11月10日</td> <td>3月20日</td> <td>3月25日～3月27日</td> </tr> <tr> <td>11月20日</td> <td>3月26日</td> <td>3月31日～4月2日</td> </tr> <tr> <td>12月1日</td> <td>3月31日</td> <td>4月5日～4月7日</td> </tr> <tr> <td>12月10日</td> <td>4月4日</td> <td>4月9日～4月11日</td> </tr> <tr> <td>12月20日</td> <td>4月8日</td> <td>4月13日～4月15日</td> </tr> </tbody> </table> <p>出穂予測資料</p> </div> </div>					出穂予測と防除時期(3月22日予測)			播種日	出穂予測	防除予想	11月1日	3月13日	3月18日～3月20日	11月10日	3月20日	3月25日～3月27日	11月20日	3月26日	3月31日～4月2日	12月1日	3月31日	4月5日～4月7日	12月10日	4月4日	4月9日～4月11日	12月20日	4月8日	4月13日～4月15日
出穂予測と防除時期(3月22日予測)																												
播種日	出穂予測	防除予想																										
11月1日	3月13日	3月18日～3月20日																										
11月10日	3月20日	3月25日～3月27日																										
11月20日	3月26日	3月31日～4月2日																										
12月1日	3月31日	4月5日～4月7日																										
12月10日	4月4日	4月9日～4月11日																										
12月20日	4月8日	4月13日～4月15日																										



標 題	うま茶振興協議会総会で次年度活動を検討		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年3月24日	場所	四国中央市新宮公民館	
指導対象	うま茶振興協議会（9人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○当協議会総会を開催し、本年度の活動実績及び8年度計画を協議し、原案のとおり承認された。</p> <p>○当班からは、今年度実施した儲かるモデル産地育成システム確立実証事業の活動実績やインバウンドお茶需要アンケートの調査結果、優良園地のマッピング等を説明。</p>			
結果と今後	<p>○8年度も儲かるモデル産地育成システム確立実証事業を活用して、首都圏等での販促活動や日本サステナブルレストラン協会主催のイベントに出店することとした。</p> <p>○また、優良茶園については、今後、所有者、生産者、面積、収量、傾斜等のデータを調査、集積し、生産管理システムの構築に向けて進めることになった。</p> <p>○引き続き、同協議会を中心に茶産地の維持に向けた取組みを推進していく。</p>			
			活動実績及び8年度計画等を検討	





標 題	「紅プリンセス」栽培講習会を初めて開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年3月18日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	「紅プリンセス」生産者（35人）	連携機関	東予地方局産地戦略推進室、JA うま	
普及指導内容	<p>○管内の「紅プリンセス」は、8年度から本格的な収穫・出荷になるため、品種特性と今後の管理、共販出荷に係る留意点等を確認する栽培講習会を初めて開催した。</p> <p>○講習会では、栽培マニュアルに基づき、品種特性に応じた摘果や土壌水分管理方法、夏期の高温対策、初収穫に向けた樹づくりの方法など、ポイントを置いて説明した。</p> <p>○また、共販出荷に係る商標の使用について、果実の品質等基準や留意事項を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者から、果実の日焼けや少雨対策、効果的なカメムシの防除方法、品質向上に向けた栽培技術等について質問が多数あり、関心の高さが伺えた。</p> <p>○「紅プリンセス」の高品質安定生産技術の普及を図るため、定期的な個別巡回を行い、指導する予定。</p>			
			<p>左：栽培マニュアルに基づき、担当者がポイントを説明</p> <p>右：ホワイトボードで樹形づくりを説明</p>	


標 題	オランダ式環境制御技術の活動成果を共有		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年3月2日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	いちご農家（20人）	連携機関	農林水産研究所、今治支局地域農業育成室、JA（周桑、えひめ未来）等	
普及指導内容	<p>○オランダの最先端栽培技術の導入により単収向上を図り、儲かる農業の実現を目指す局予算事業（R7年度～）において、今年度の実績報告会を開催し、農家や関係者に活動成果を共有した。</p> <p>○報告会では、灰色かび病の発生を劇的に抑制した事例などを報告するとともに、先進県の動向や最新の試験研究成果を共有。</p> <p>○さらに、今年度の優良事例を「事例集」として文書化し、配布した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した農家からは、「新技術導入により現在の管理上の問題点が明確になり、自ら改善策を考えられるようになった」「志の高い仲間が増え、産地全体が盛り上がりしてきた」等、技術の効果を実感する声や事業を評価する声が寄せられた。</p> <p>○次年度も事業を継続し、専門家と普及指導員が連携して指導にあたることで、技術の定着を目指す。</p> <p>○併せてマニュアルを作成し、県内全域への波及を図る。</p>			
 <p>活動成果を報告</p>		 <p>配布した事例集</p>		<p>【環境制御技術】 生育データやハウス内の環境データを植物生理学に基づいて分析し、植物の生育に最適な環境を構築することにより、収量と品質を向上させる技術。 施設園芸大国オランダで生まれ、その後、日本の気候風土に合わせて進化してきた。いちごの主産県を中心に導入が進んでいる。</p>



標 題	花木苗の増殖とせん定について研修		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年3月24日	場所	西条市内各地	
指導対象	東予花木生産者（4人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○東予花木生産者ネットワークは、優良系統の増殖と収益性の高いせん定方法の習得をテーマに研修会を開催した。</p> <p>○繁殖の難易度が高いユーカリを対象に、バラで挿し木経験が豊富なメンバーの指導のもと、ロックウールを用いた繁殖方法について研修した。</p> <p>○せん定については、ティナスとグミを対象に、出荷に有利な規格をより多く確保するための樹形づくりについて意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○優良系統の増殖に課題を抱えるメンバーが多い中、新たな増殖技術への関心が高く、引き続き増殖技術について検証することとなった。</p> <p>○せん定については、樹形に関してお互いの考え方を共有することで、新たな気づきを得られた様子であった。</p> <p>○次回は効果的な防除方法について研修を行う。</p>			
 <p>挿し木の研修</p>		 <p>せん定について意見交換</p>		<p>東予花木生産者ネットワーク 東予管内の意欲的な生産者が集まり、会員相互の技術向上を通じて、儲かる花木栽培の実現と花木産地の発展を目指すネットワーク</p>


標 題	県オリジナル品種「愛媛果試第 48 号」のせん定講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和 8 年 3 月 24 日	場所	今治市菊間、大西	
指導対象	営農指導員（2 人） かんきつ生産者（56 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○本品種は直立性が強く、枝が硬化しやすく下垂しにくいこと、枝先端部で発芽・着花しやすいこと、葉がやや小さめで果実が露出しやすく夏季に日焼けを起こしやすいことなどの特徴を参加者に説明。</p> <p>○今期は樹冠の拡大が図れたことから、8 年度用の結果母枝の選び方、次年度用結果母枝発生のための切り替えし、日焼け予防のための樹冠上部の天蓋の作り方を指導した。</p> <p>○枝梢が直上し硬化しやすいことから、下垂しやすいしなやかな樹相を作ることを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した生産者は、今年度の様子、その果実を守るための新葉による天蓋、次年度結果母枝の確保などについて実践することとなった。</p> <p>○当室は引き続き県オリジナル品種の栽培支援を行っていく。</p>			
				
			<p>左：講習会の様子 右：せん定仕上がり</p>	


標 題	きゅうり栽培希望者説明会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和 8 年 3 月 14 日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部	
指導対象	きゅうり栽培希望者（16 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○管内主力野菜であるきゅうりの面積拡大を図るため、栽培希望者説明会を開催した。</p> <p>○産地紹介や初心者に対する支援体制等を説明後、年間作業スケジュールと定植作業等の重要な作業ポイントについて映像等を活用して指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した栽培希望者からは、土づくりや作業、作付けに向けた具体的な質問が多く出され、きゅうり栽培への関心の高さがうかがえた。</p>			
				
			<p>左：講習会の様子 右：普及員が講師となり講習</p>	

標 題	ユーカリの安定生産に向けた栽培講習会の実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月5日～13日	場所	松山市、東温市内各地	
指導対象	JA松山市ユーカリ専門部会、 JAえひめ中央花木部会（134人）	連携 機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導 内容	<p>○ユーカリの高品質安定生産を目的に、管内8地区の生産者を対象とした栽培講習会を開催した。</p> <p>○講習会では、当室が実施した病害虫発生消長調査に基づく主要害虫の発生時期や特性、防除適期について指導するとともに、枝物類で被害が増加している「チュウゴクアミガサハゴロモ」について注意喚起を行った。</p> <p>○また、現地ほ場では、台刈りせん定の方法（せん定期、切戻位置）や、作業上の留意点等について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○講習会参加者は、病害虫の発生時期や適期防除の重要性のほか、台刈りせん定のポイントについて理解を深めることができた。</p> <p>○今後は、病害虫の発生動向の把握と現地巡回を引き続き実施し、高品質安定生産に取り組むことにより産地基盤の強化を図る。</p>			
 <p>栽培講習会</p>		 <p>台刈りせん定の指導</p>		<p>【チュウゴクアミガサハゴロモ】 産卵痕及びロウ物質の付着により、枝物としての外観品質が低下する被害が生じる。</p>   <p>成虫 産卵被害</p>


標 題	農作業有償ボランティアに係る情報交換会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月6日	場所	中予地方局	
指導対象	-	連携 機関	東予地方局農業振興課、(株)カチキカク(株)VOCE、JAえひめ中央、農地・担い手対策室	
普及指導 内容	<p>○今年度運営開始の「中予農業応援ボランティア」をはじめ、県内各地で農作業有償ボランティアの取組みが展開され、農繁期における労働力確保支援を進めているところ。</p> <p>○今回初めて、「東予で有償ボランティア」「愛媛お手伝いプロジェクト」「中予農業応援ボランティア」の運営関係者が集まり、今後のボランティア推進及び連携強化を目的とした情報交換会を開催した。</p> <p>○各ボランティアにおける今年度の取組み実績や課題、今後の推進方策等の報告があった後、意見交換を実施した。</p>			
結果と 今後	<p>○各ボランティアの体制及び取組み内容への理解が深まるとともに、マッチング率や認知度向上といった課題における対応を把握できたことで、今後の運営方針や推進体制を検討していく上での参考となった。</p> <p>○今後も本会を開催するとともに、各運営体制間で随時情報共有するなど連携していくことを申し合わせた。</p>			
 <p>情報交換会</p>				


標 題	きゅうりの促成栽培における天敵利用の実証		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月11日	場所	松前町大溝地区	
指導対象	促成きゅうり生産者（1人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○当室では、きゅうりの促成栽培における天敵「タバコカスミカメ」利用による難防除害虫（コナジラミ類、アザミウマ類）の防除効果について実証試験を実施。</p> <p>○今回、10月定植で6月収穫終了の作型を対象に、「タバコカスミカメ」と温存植物である「クレオメ」を組み合わせるハウスを導入し、2週間おきに病害虫の発生程度を調査。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は、「タバコカスミカメ」を導入後は殺虫剤の散布回数を3割程度削減できていると実感しており、さらなる化学農薬の低減に向けて今後も実証を継続する。</p> <p>○なお、2月から「コナジラミ類」の発生が増加したことから、天敵に影響の少ない殺虫剤による防除や「タバコカスミカメ」の追加放飼を実施。</p> <p>○今後は、生産者自らが「クレオメ」の育苗を行い、きゅうりの定植と同時期に定植することで、栽培初期から「タバコカスミカメ」を定着させ「コナジラミ類」の発生を抑えられるか実証する。</p>			
				<p>左：病害虫調査</p> <p>右：温存植物「クレオメ」設置</p>

標 題	集落営農の3市町連携活動報告会の開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年3月17日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	伊予地区集落営農組織等連絡協議会 (20人)	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○管内3市町の集落営農組織の連携強化に向け、初の活動報告会を企画・開催した。</p> <p>○各組織のリーダーによる耕作放棄地対策やドローン導入事例の発表を促し、現場の知見を共有する場を構築した。</p> <p>○会では高収益品目への転換や農作業安全について専門的な助言・指導を行い、課題解決能力の向上と組織間ネットワークの深化を図った。</p>			
結果と今後	<p>○一連の働きかけにより参加者の意欲が喚起され、次年度は2組織が実践報告を行うことを申し合わせるなど、組織間連携の具体的な広がりを実現した。</p> <p>○今後もこの報告会を継続的な知見共有の基盤とし、現場に即した支援を通じて、地域農業の持続可能な体制確立を後押ししていく。</p>			
		<p>活動報告会</p>		


標 題	「媛かぐや」の高品質安定生産と実需者ニーズに基づく加工出荷体制の構築		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年3月19日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	「媛かぐや」産地育成推進会議 会員 ほか (16人)	連携 機関	伊予市、松前町、砥部町、JA(全農えひめ、松山市、えひめ中央) ほか	
普及指導 内容	<p>○第2回「媛かぐや」産地育成推進会議を開催し、今年度の実績評価と次年度の戦略的な活動計画について関係機関と合意形成を図った。</p> <p>○実需者ニーズを捉えた助言を行い、新規加工会社への出荷ルート開拓と商品開発を支援し、単なる生産指導に留まらない、出口を見据えた流通体制の仕組みづくりを後押しした。</p>			
結果と 今後	<p>○今年度は生産・流通・販促の各段階で進ちょくを管理し、巡回指導による徹底した栽培管理指導により、平均単収2t/10a(全体約6t)と前年を大幅に上回る収量を実現した。</p> <p>○次年度は「加工用」の生産を軸に据え、栽培技術の平準化、冷凍加工による通年流通の確立、認知度向上に向けた伴走型支援を継続していく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;">  </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：産地育成推進会議</p> <p>右：R6, R7の同時期(8月下旬)の生育状況比較</p> </div> </div>				


標 題	雑穀の生産振興や消費拡大を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年3月10日	場所	JA松山市久万経済センター	
指導対象	久万高原ブランドづくり推進会議 構成員、県立上浮穴高校 (13人)	連携 機関	(一社)日本雑穀協会、久万高原町 JA松山市、県立上浮穴高校	
普及指導 内容	<p>○雑穀の生産振興及び消費拡大を目的とした「雑穀生産ステップアップ支援事業」(局予算事業)に係る推進会議を開催し、今年度の活動実績の協議等を行った。</p> <p>○(一社)日本雑穀協会のアドバイザーから同協会が制定した「雑穀の日」(3月9日)、料理専門家から開発した雑穀レシピ3品について、県立上浮穴高校からは雑穀商品開発等の紹介があった。</p> <p>○また、試作中の雑穀メニュー3品について報告があり、参加者で試食を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○雑穀の生産振興を図るため、実証ほの設置や栽培研修等による技術普及に加えて、栽培希望者の掘り起しを行う。</p> <p>○観光商品(ビーガン向けメニュー等)の開発販売やWebサイト等での取組み紹介による認知度向上について会議で提案があり、今後検討を行う。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>【ビスコッティ】 イタリアのナッツ類が豊富に入った棒状の堅焼きクッキーで、現地ではワインやコーヒーに浸して食べる。</p> </div> <div style="display: flex; gap: 20px;">   </div> </div> <p style="text-align: center;">上浮穴高校から取組み紹介 雑穀を用いたビスコッティ</p>				



標 題	青年農業者組織が「土づくり」に係る勉強会を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年3月12日	場所	久万農業公園アグリピア	
指導対象	久万高原町青年農業者連絡協議会 (11人)	連携機関	久万高原町 JA松山市	
普及指導内容	<p>○同協議会は、会員のスキルアップを図るため、毎年複数回の勉強会を実施している。</p> <p>○当班では、土づくりについて学びたいとの協議会員の要望を踏まえ、勉強会の企画・開催に向けた調整を支援した。</p> <p>○当日は、久万高原町の土壌特性や、JAが実施した各参加者のほ場の土壌診断結果を基に、講師から個別の助言や参加者同士の意見交換が行われた。</p>			
結果と今後	<p>○講師が同会員であったことから、参加者が発言しやすい雰囲気の中で実施された。</p> <p>○質疑応答では、会員である久万農業公園農業研修センターの研修生や若手農家から積極的な質問があり、来年度の栽培に向けた土づくりについて理解を深めていた。</p> <p>○今後も引き続き、青年農業者の資質向上につながる活動を支援していく。</p>			
<p>【久万農業公園農業研修センター】 久万高原町では、後継者不足と高齢化に対応するため、若者が実践的な研修を通じて農業経営を学び、新規就農につなげる制度を整備している。研修センターでは施設園芸を中心に、簿記やパソコン、流通など経営に必要な知識も学ぶことができる。</p>				勉強会の様子

標 題	道の駅で雑穀メニューを販売中		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年3月17日	場所	道の駅天空の郷さんさん	
指導対象	道の駅天空の郷さんさんレストラン 職員（1人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○久万高原町内の道の駅「天空の郷さんさん」では、毎週火曜日を「雑穀の日」として、PR活動の一環で雑穀ごはんやおにぎりを販売している。</p> <p>○雑穀ごはんやおにぎりには、当班から提供した「たかきび」や町内産の「黒米」「もち麦」が使用されており、鮮やかな赤紫色で赤飯のような外観である。</p> <p>○レストランでは、バイキングメニューのごはんを白米と雑穀ごはんから選択可能で、雑穀おにぎりは直売所で購入できる。</p>			
結果と今後	<p>○「雑穀の日」を目当てに道の駅を訪れる人も多く、町内のイベント「くままちひなまつり」の時期とも重なり、販売は好調である。</p> <p>○道の駅からは、雑穀が確保できれば取組みを継続したいとの意向があり、当班では、引き続き雑穀メニュー提供施設への支援を行い、雑穀の消費拡大及びPRに努める。</p>			
		<p>販売中の雑穀おにぎり (2個 300円)</p>		

標 題	女性農業者が食育交流会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年3月17日	場所	久万町民館	
指導対象	久万高原町農業経営者協議会女性部 「耕楽」会員ほか（18人）	連携 機関	久万高原町 県立上浮穴高校	
普及指導 内容	○久万高原町農業経営者協議会女性部「耕楽」は、地元食材の利活用に関する知識技術の継承や若い世代との交流を目的として、久万高原町の地域食材である「久万大豆」の普及を進めている県立上浮穴高校との食育交流会を開催した。 ○当班からは、雑穀生産者の募集や栽培啓発を行った。			
結果と 今後	○参加者は高校生や教諭から豆乳の加熱やにがりを添加する際の注意点等の指導を受けながら、会員が栽培した久万大豆を用いた豆腐づくりを行い、交流を深めた。 ○参加者からは、「久万大豆が確保できればみそづくりもできるのではないか」等の意見があり、当班は県立上浮穴高校や関係機関・団体と連携のうえ、地域食材の生産振興や利活用につながる取組みを支援していく。			
				
上浮穴高校からレシピ説明		高校生との豆腐づくり		参加者で記念撮影

標 題	西日本豪雨災害からの営農再開支援		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月12日、17日	場所	宇和島市吉田町玉津、立間	
指導対象	かんきつ生産者（2人）	連携 機関	南予地方局農村整備課、みかん研究所、JA えひめ南	
普及指導 内容	○西日本豪雨災害後に再編復旧工事に取り組んだ玉津地区「白浦工区」の一部の園地を早期成園化モデル園に設定しており、みかん研究所と連携し、令和9年秋の初収穫を目指した管理指導を行った。 ○立間地区の「白井谷工区」では、0.7haの園地が完成したことから、2年生温州みかん苗木の定植と当面の管理ポイントを指導した。			
結果と 今後	○みかん研究所長から、「良好な生育には基本管理の徹底が必要不可欠」との話があり、当室は、定期的に生育状況を確認しながら施肥、かん水や防除指導を継続することとした。 ○今後も、関係機関が営農に係る進捗や営農支援対策等の情報を共有しながら、かんきつ産地の復興が着実に進むよう支援する。			
				
左：白浦工区での生育状況確認			右：白井谷工区での苗木定植支援	



標 題	急傾斜園への簡易作業道の設置推進		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年3月12日、17日、25日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	新規就農者（4人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○超急傾斜かんきつ園における省力・軽労化を図るため、電動一輪車等が使用可能な簡易作業道の設置を新規就農者等に推進しており、今回4人が当室の支援で設置した。</p> <p>○水田等で使われている市販の畔板を使った簡易作業道の設置方法や、間伐による作業のしやすい園地づくりについて、それぞれのは場で指導した。</p>			
結果と今後	<p>○設置した新規就農者からは、「園地内が歩きやすくなったので、別の園地でも設置したい」「間伐を行うことで日当たりが良くなった」などの意見が聞かれた。</p> <p>○今後も、急傾斜かんきつ園の労働環境改善を図るため、簡易作業道の設置を推進する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>設置前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>設置後</p> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">左：簡易作業道の設置指導</p> <p style="margin-top: 10px;">右：簡易作業道の設置前後の比較</p> </div> </div>				



標 題	農業研修生らが施設きゅうりの先進地を視察		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年3月13日	場所	西条市丹原町	
指導対象	農業研修生、きゅうり生産者（5人）	連携機関	鬼北町	
普及指導内容	<p>○就農研修生や就農間もない新規就農者を対象とした「KIHOKU あぐり講座」の一環として、施設きゅうりの越冬栽培に取り組む県内先進地で視察研修を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、視察先のきゅうり生産者から、冬から春の寡日照期に草勢を落とさず高品質な果実を収穫し続けられる栽培管理方法等について学びを深めた。</p> <p>○また、炭酸ガスの施用方法、定植時の苗質と活着促進管理、親づるの誘引整枝と力枝のつる下ろし仕立てのポイントなどについて、熱心に質問した。</p> <p>○当班では、今後も、農業研修生の円滑な栽培開始や就農後間もないきゅうり生産者に対し、栽培技術の向上と安定した収入の確保へ向けた支援を継続していく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;">  <p style="margin-top: 10px;">左：視察先のきゅうり施設外観</p> <p style="margin-top: 10px;">右：栽培管理について説明を聞く参加者</p> </div> </div>				


標 題	農作業事故ゼロを目指してアンケート調査を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班														
年月日	令和8年3月3日	場所	愛南町内各地															
指導対象	愛南町認定農業者(134人)	連携機関	愛南町、JA えひめ南															
普及指導内容	<p>○愛南町認定農業者協議会は、農作業事故の多発を踏まえ、農作業事故の実態を把握し防止対策に取り組むため、協議会員67人と非会員67人を対象にアンケート調査を実施した。</p> <p>○当班は、農作業事故実態調査に係るアンケートの作成と集計分析を行い、対策資料の作成を担当した。</p>																	
結果と今後	<p>○回答のあった51人の結果から、農作業事故が12件発生し、草刈機とチェーンソーによる負傷者8人が入院・通院していた。</p> <p>○事故原因として、「慣れ」「あせり」が78%を占めたことから、当班では、注意喚起ラベルを配布し、今後も、事故防止に向けた意識啓発や講習会を通じて事故ゼロを働きかける。</p>																	
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>農作業事故が発生した作業</p> <table border="1"> <caption>農作業事故が発生した作業</caption> <thead> <tr> <th>作業種別</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>草刈り</td><td>4</td></tr> <tr><td>木材切断</td><td>4</td></tr> <tr><td>袋詰</td><td>1</td></tr> <tr><td>防風林刈込</td><td>1</td></tr> <tr><td>剪定</td><td>1</td></tr> <tr><td>収穫</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;"> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 20px;"> <p>左：農作業事故が発生した作業 右：事故防止の啓発シール</p> </div> </div>					作業種別	件数	草刈り	4	木材切断	4	袋詰	1	防風林刈込	1	剪定	1	収穫	1
作業種別	件数																	
草刈り	4																	
木材切断	4																	
袋詰	1																	
防風林刈込	1																	
剪定	1																	
収穫	1																	



標 題	「河内晩柑」におけるドローン防除の効果を確認		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和8年、3月5日	場所	愛南町御荘平山、城辺	
指導対象	—	連携機関	愛南町、JA えひめ南、南宇和地区営農指導連絡推進会議果樹部会	
普及指導内容	<p>○直線的に植栽され独立樹となるよう管理されている「河内晩柑」園地において、令和7年7月からマンゼブ剤を3回ドローンで散布し、黒点病の防除効果を確認した。</p> <p>○収穫果実調査では、ドローン散布区と手散布区別に黒点病の発病程度を6段階で評価し、精品率を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○ドローン散布区の精品率は87.3%と、手散布区97.0%に対しやや劣るものの、許容範囲の品質が確認できたことから、労働力負担の大きい夏季防除での導入推進に繋がる結果が得られた。</p> <p>○今後は、関係機関に結果を共有し、生産者に対しては栽培講習会等で結果を周知するとともに、薬剤のかかり易い樹形への改善と併せてドローン防除を推進する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> </div> <div style="flex: 1;"> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 20px;"> <p>左：収穫調査 右：発病指数別果実</p> </div> </div>				



標 題	「媛小春ゼリー」が完成、販売開始！		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年3月3日	場所	知事会議室	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会	連携機関	BEMAC 株式会社	
普及指導内容	<p>○南予地域で産地化を進めている「媛小春」について、加工品開発に取り組んでいた「媛小春ゼリー」が完成したことから、特別職への報告会を経て、数量限定で販売が開始された。</p> <p>○開発にあたり当室では、令和6年から県産かんきつの商品化を手掛ける BEMAC(株)と協議を重ね、生産者の紹介や果実の調達等の調整のほか、今年1月には同社社員を交えた収穫作業など、協議会と連携して完成を迎えた。</p>			
結果と今後	<p>○報告会では多くのメディアが集まり、「媛小春」の注目度の高さが伺われたことから、引き続き、“黄色の果皮と味の意外性”“爽やかな甘さ”を PR し、認知度の向上を図る。</p> <p>○当地域では苗木の導入が進んでおり、今後も栽培面積は増加する見込みであるため、当室では安定生産を図るため技術的支援を強化するとともに、地元市場等との連携を図り、栽培と販売支援の両輪で産地振興と生産者の所得向上を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：ゼリーの完成を知事に報告 右：「媛小春ゼリー」の外観・外装と原料の「媛小春」</p> </div> </div>				

標 題	つるむらさき定植前講習会を各地で開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年3月24日、26日	場所	JA えひめ南 三間営農センター、南宇和営農センター	
指導対象	つるむらさき生産者（5人）	連携機関	JA えひめ南、(株) 太陽	
普及指導内容	<p>○夏季の高温条件下でも小面積で収益を確保でき、かつ栽培が容易な軽量野菜として推進するため、当室はつるむらさきの栽培講習会を開催し、立体栽培実証試験等の結果や、定植後の活着を促すために必要な地温確保の方法、かん水のポイントなどを説明した。</p> <p>○また、新規生産者向けに袋詰めを補助する器具について、メーカーを招聘し実演を交えながら紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は、栽植密度の考え方、単位面積あたりのかん水量について質疑を交わし理解を深めた。</p> <p>○今後、新規拡大地域である愛南町では重点的に栽培指導を行う予定であり、5月下旬には出荷物目合わせ会を計画している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：映像等で説明 右：メーカー担当者が実演しながら説明</p> </div> </div>				

標 題	マンダリン・シトラス合同スクール「石積み講習会」を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年3月4日	場所	八幡浜市川上地区	
指導対象	新規就農者等(22人)	連携機関	JAにしゅうわ	
普及指導内容	<p>○当室は、新規就農者や就農研修生にかんきつ栽培の基本技術等を習得させるため、JAにしゅうわと連携し「マンダリン・シトラス合同スクール」を定期的実施しており、今回は、以前から要望が多かった石積みの技術を学ぶ講習会を開催した。</p> <p>○当地区で長年石積み作業を請け負っている講師から、石を安全に正しく積む方法を学ぶとともに、実際に崩れた石積みの修復作業を体験し、1時間半ほどで、幅約4m、高さ1.5mの石積み修復した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「石積みを教わる機会は少ないので楽しみにしていた」「積み方のポイントがよく分かった」「ぜひ自分の園地で実践したい」などの感想が聞かれた。</p> <p>○来年度も講習内容を厳選し、当スクールを実施する。</p>			
				<p>左：石積みの作業体験 右：修復後の石積み</p>

標 題	若手で地域の課題解決を図る		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年3月17日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八西地区青年農業者協議会員(13人)	連携機関	八幡浜市、伊方町、JAにしゅうわ	
普及指導内容	<p>○青年農業者の課題解決能力や経営能力の向上を目的に、八西地区青年農業者協議会主催のプロジェクト発表会の開催を支援した。</p> <p>○当室は、プロジェクト課題の設定や調査研究の進め方、結果の取りまとめ及び成果の波及について指導しており、その一環として、当発表会内で普及活動の実績を発表し、産地強化や新規就農者の確保・定着に向けた取組みを共有した。</p>			
結果と今後	<p>○摘果シートを活用した省力化技術に関するプロジェクトが発表され、作業時間の短縮や新梢発生、果実品質への影響等についての成果が共有された。会員は省力化と安定生産に向けた当技術の有効性について理解を深めた。</p> <p>○審査員からは、発表内容や取組み姿勢に対する助言や激励があり、今後の活動意欲の向上につながった。</p> <p>○今後も青年農業者の組織活動を支援しながら自立を促すと同時に、技術の普及と経営の安定化を図っていく。</p>			
				<p>左：プロジェクト発表会 右：発表を行う青年農業者</p>

標 題	青年農業者連絡協議会がプロジェクト発表会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和8年3月12日	場所	宇和地域づくり活動センター	
指導対象	西予青年農業者連絡協議会員(25人)	連携機関	西予市、JAひがしうわ	
普及指導内容	<p>○青年農業者組織会員の資質向上と課題解決能力向上を図るため、傘下2組織（明浜・三瓶）で取り組んだプロジェクト活動発表会を開催した。</p> <p>○プロジェクト発表では、明浜が昨年度大きな被害を受けた果樹カメムシ類の発生予察方法について学習・実践した結果を報告するとともに三瓶が地域を盛り上げる活動として大学生とのコラボ商品開発・販売と労働力支援活動等を報告し、地区代表を競った。</p>			
結果と今後	<p>○審査員からは「地域の課題をしっかりと把握し、課題解決に向かって頑張っている素晴らしい発表であった。これからも、ぜひ、この活動を継続してほしい」などの講評があった。</p> <p>○今年度の最優秀賞は、僅差で三瓶町4Hクラブとなった。</p> <p>○当班は、今後も地域の課題解決に向け、意欲的に活動している青年農業者組織を支援し、地域の活性化を図っていく。</p>			
				<p>左：青年の発表の様子 右：最優秀賞の表彰</p>

標 題	青年農業者がマルシェを開催し、西予の農業をPR		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和8年3月15日	場所	宇和文化会館	
指導対象	西予青年農業者連絡協議会員(10人)	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○青年農業者の活動と農業の魅力をPRするため、「西予の若手農家おすすめの逸品市」を開催し、自らが生産した農産物の直売を行ったほか、パネル等を展示して普段農業に接することのない参加者に農業の魅力を紹介した。</p> <p>○当班は、イベント来場者に西予農業の現状を知るためのアンケートを実施し、「西予の農業の魅力」「地元の若手農家をどう思うか」「これからの農業に期待すること」などについて回答を募った。</p>			
結果と今後	<p>○イチゴなどの野菜の販売のほか、かんきつ詰め放題といった体験型の企画が好評で、参加者からは「ぜひまた来たい」「今度はもっといろんなイベントにも出てほしい」といったうれしい意見が寄せられた。</p> <p>○当班では、今回得られたアンケート結果を青年農業者へフィードバックし、今後の活動の参考として活用するとともに、引き続き、青年農業者活動支援に取り組む。</p>			
				<p>左：自分達の農産物についてPR 右：来場者に西予の農業についてアンケートを実施</p>

標 題	FOODEX JAPAN2026 で青ネギの販路開拓を支援		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和8年3月10日～22日	場所	東京ビッグサイト（東京都）	
指導対象	(株) ノムランド	連携機関	西予市、営業本部	
普及指導内容	<p>○当室で産地化を支援している青ネギの販路開拓のため、アジア最大級の食品産業展示商談会である FOODEX JAPAN2026 への参加を支援した。</p> <p>○今回、青果物の試食だけでなく、新たに試作したネギパウダーを活用した加工品の試食も交え、西予市産青ネギの特徴をPRし、商談が円滑に進むよう支援した。</p>			
結果と今後	<p>○苦みが少なく香りやうま味が感じられるとバイヤーから高評価で、大手スーパー等との商談が順調であったことに加え、加工品は海外バイヤーにも好評であった。</p> <p>○今回の結果を受けて、輸出も見据えて加工品の開発を進めることとなったため、今後は海外の農薬残留基準など輸出規制への対応も含め、販路開拓を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>展示ブース</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生産者とバイヤーの商談</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ネギパウダー等の試食</p> </div> </div>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543